

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第454号 平成24年12月12日

猛威を振るうノロウイルス

道は6日、保育所や介護保険施設など道内の4施設でノロウイルスによる集団感染があり、感染性胃腸炎の患者が出たと発表しました（12月7日付朝日新聞）。いずれの方々も快方に向かっているとの事ですが、下痢や嘔吐などの症状を訴えたのは98人に及んだといえます。

ノロウイルスによる集団感染は全国的に広がっており、厚生労働省の発表によると、2006年（平成18年）に次いで、過去10年間で2番目の高水準となっているとの事です。

特に、10月には、新潟市内の福祉施設で発生した集団感染の患者から遺伝子に変異した新しいタイプのノロウイルスが検出された事が、国立医薬品食品衛生研究所などの調査により明らかとされていますが、その後も、北海道や東京、千葉などで変異したウイルスが確認されています。過去、最も流行が大きかった2006年には遺伝子の変容が大きな原因であったといわれており、新潟県保健環境科学研究所の田村ウイルス科長も「状況が（2006年と）似ている。多くの人々が感染する可能性がある（12月8日付朝日新聞）」と述べているように、今後全国的に感染が広がるのではないかと懸念されます。

ノロウイルスというのは、1968年（昭和43年）に米国オハイオ州ノーウォークという町の小学校で発生した集団食中毒の患者のふん便から発見されたウイルスで、ノーウォークウイルスと呼ばれていました。1972年（昭和47年）に電子顕微鏡でその形態が明らかにされ、2002年（平成14年）に国際学会で正式にノロウイルスと命名されています。

ノロウイルスは非常に感染力が強く、アルコール消毒液では死滅しないといわれ、乾燥した状態でも、4℃では8週間程度、20℃で3～4週間生存するとされています。

ノロウイルスは手指や食品などを介して、経口で感染し、

- ・患者のノロウイルスが大量に含まれるふん便や吐しゃ物から人の手などを介して二次感染した場合
- ・家庭や共同生活施設などヒト同士の接触する機会が多いところでヒトからヒトへ飛沫感染等直接感染する場合

- ・食品取扱者が感染しており、その者を介して汚染した食品を食べた場合
- ・汚染されていた二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合

等に感染するとされており（厚生労働省「ノロウイルスに関するQ&A」）、学校や福祉施設など多数の人達が共同で生活や活動している施設では、度々ノロウイルスの集団感染が発生しています。

また、ノロウイルスに感染すると嘔吐、下痢、腹痛等を起こします。健康な方は軽傷で回復しますが、子どもやお年寄り等は重症化したり、最悪の場合は死に至る場合もあります。

ノロウイルスの感染を避けるためには、

- ・食事の前やトイレの後等には、必ず手を洗う事
- ・下痢や嘔吐等の症状がある人は、食品を直接取り扱う作業をしない事
- ・感染者と接する人は、罹患者のふん便や吐しゃ物を適切に処理して、感染を広げないように留意する事

が必要です（上記「Q&A」から）。特に、福祉施設等では、施設内部だけでなく外部からもウイルスが侵入する可能性が有りますので、その点にも十分留意する必要があります。

我が国においては、1年を通してノロウイルスの感染が発生していますが、発生件数でみると11月位から増加しはじめ、12月から翌年の1月が発生のピークといわれていますので、これからが本番です。

ノロウイルスには十分留意して、楽しい年末年始を送りたいものです。

（塾頭：吉田 洋一）